

新年あけましておめでとうございます。本年も経済教育ネットワークの活動へのご支援をよろしくお願いいたします。

昨年12月に次期学習指導要領に関する中央教育審議会の答申がだされました。今回の改訂は、2020年に小学校から導入され、21年に中学校、22年からは高等学校が学年進行で実施するという短期間での改訂が特徴です。経済教育に関しては、高等学校公民科で導入される必修の新科目「公共」でどのような内容が盛り込まれるかが焦点となることが予想されます。

昨年来、世界は大きな変動が続いています。このような世界の動向も踏まえて、2030年に生きる若者をどう育てるのか、それを見据えた指導要領作成が求められています。とはいえ、教育は日常の地道な活動が基盤。生徒にとって面白く、役立つ、そして自分で考える手がかりをあたえられる授業の積み重ねが一番大事と言えるかもしれません。

そんな新春、今月もネットワークの活動を報告するとともに、授業に役立つ情報を提供いたします。

【1】最新活動報告

昨年12月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

冬の教室、年次大会、部会の案内などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

最新のニュース、昨年12月に行われた活動などを報告します。

■「冬の経済教室 in 東京」を開催しました。

(1) 2016年12月27日(水)13:00~16:45、慶應義塾大学東館ホールで、82名の参加者をえて「冬の経済教室 in 東京」が開催されました。

(2) 主催者挨拶のあと、第一部では、立命館大学他講師の河原和之先生から、経済と日本地理の融合教材の二つが紹介されました。

自己紹介のあと、河原先生から、アクティブラーニング、ユニバーサルラーニング(学力差のない授業)、キーコンピテンシー(他者と意見を交わしながらつくりあげる基礎的な知力)に基づく、動的地理教育の教材が提示されました。

教材紹介は二つあり、最初に鳥取、島根のケースが紹介されました。

『島根自虐伝』に基づくクイズで島根県の現状をイメージし、人口が減っている島根の理由を考えさせます。そのうえで、反対に人口が増えている島根県

邑南町のまちづくりの施策をビンゴ方式で考えさせるという流れの授業です。この授業教材をもとに先生方を巻き込んだモデル授業が展開されました。

次に紹介されたのは、沖縄です。

沖縄に関する 47 都道府県の 1 位と 47 位の事例から、沖縄の特色をグループで考えさせます。さらに沖縄の産業の特色をデータから読み取らせ、スイカを切り口として沖縄の農業や産業構造を確認します。そして、沖縄の現在の状況を確認して、沖縄がもっているプラス面、問題点をあげさせて、これからの沖縄を考えさせるという手順の授業です。

(3) 第二部は、教材に対するコメントと意見交換が行われました。

まず、河原典史先生（立命館大学）から「時間と空間から考える地理学」というコメントがありました。河原先生は、地理学は、大地の描写、景観を考える学問であることと定義されて、河原和之先生の沖縄の事例では、沖縄におけるサンゴ礁の地形から沖縄の農業や水問題が発生することが自然地理学から言え、それを踏まえて授業展開がされているとコメントされました。

次に、島根の邑南町の事例を、時間と空間からとらえるための視点を紹介されました。そのなかで、時間軸で地域の変化を考える場合、旧版の地形図を活用すると変化が明確に分かるとして、その具体的例を邑南町の地図を使って紹介されました。また、地図のスケールを変えることや地名に関心をもつことで地域の特色や問題が浮かび上がる例を紹介されました。

最後に、2022 年から高校で導入がきまっている必修「地理総合」では、GIS（地理情報システム）の活用がこれからの課題になるとコメントをまとめられました。

(4) 加藤一誠先生（慶応義塾大学）からは、「地域間再配分の経済地理」というコメントがありました。

加藤先生は、島根県邑南町の地域おこしの事例を経済の視点からみたらどうとらえることができるか問題提起をされて、財源問題と無料化の問題をとりあげられました。

沖縄に関しては沖縄が観光などの三次産業中心になってしまっている背景まで見る必要があるとして、占領時代の軍票（B 円）のレート問題や、沖縄の飛行機運賃の補助やハブ化の現状などにも言及されました。

経済の観点からは、一つの地域の一見素晴らしい話もその裏にある構造までみないと十分ではないことを示唆されコメントを終了されました。

(5) 二人の先生のコメントの後、質疑応答が活発にあり、盛況のうちに教室は終了しました。

内容の詳細は、以下の HP でご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/activity/2016%20Fuyukeizai/FuyukeizaiTokyoKeioReport.pdf>

■東京部会（No.88）を開催しました。

(1) 冬の教室の終了後、12月27日17時30分～18時30分まで、慶應義塾大学研究棟446会議室で東京部会を行いました。参加者23名。

(2) 年次大会の内容確認を行いました。内容はHPに掲載されている通りです。
2017年3月25日（土）13:00～17:00 京都学園大学太秦校舎。テーマは、新科目「公共」と経済教育。当日の問題提起者の金子幹夫先生（平塚農業高校初声分校）と、升野伸子先生（筑波大学付属中）から、授業提案の概略の説明が行われました。

(3) 部会報告、活動報告、教材検討などを行いました。

①冬の経済教室（札幌） 2017年1月28日（土）13:00～17:00、
場所：札幌教育大学サテライト教室、に関して札幌部会から出席された竹内大輔先生（浦河町立浦川一中）より内容の紹介と取り組み状況の報告がありました。

②来年の夏の経済教室（東証との共催）の日程の確認と内容準備の要請がありました。日程と会場は以下のとおりです。

8月3日（木）、4日（金） 名古屋（ういんくあいち）

8月7日（月）、8日（火） 大阪（国民会館）

8月14日（月）、15日（火） 東京高校（東証ホール）

8月17日（木）、18日（金） 東京中学（東証ホール）

内容に関しては、10年間の総括的な内容、また、次期指導要領関連の課題などの企画を考えることとなり、次回東京部会までに骨子提案をしてゆくこと（講演、講義、シンポジウム、見学など）が確認されました。

③各種プロジェクトの現状報告などが行われました。

(4) 情報提供関係

篠原代表から、社会保険に関する人口変動の問題を扱った野口悠紀雄氏の文章が紹介されて、世代間の負担と給付問題がこれからの経済学習で注意が必要な領域となることが指摘されました。

ほかに、金融広報中央委員会のセミナーなど他団体からの情報が紹介されました。

(5) 他の部会や初参加者が多かったこともあり、参加者からの実践の取り組みの簡単な報告があり情報交換を行いました。

内容の詳細は以下のHPでご確認ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/index.html>

【 2 】 イベントカレンダー

* イベント予定です。

■ 冬の経済教室（札幌）を開催します。

日時：2017年1月28日 13時00分～17時00分

場所：北海道教育大学（札幌）サテライト教室

内容、参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/keizaikyousitu/2016%20keizaikyoushitsu/2017SapporoFuyukeiaiR.pdf>

* 定例部会のお知らせです。（開催順）

■ 名古屋部会（No.9）を開催します。

日時：2017年1月21日（土） 15時00分～17時00分

場所：椙山女学園大学 現代マネジメント学部棟

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/nagoya/Nagoya010flyer.pdf>

■ 札幌部会（No.17）を開催します。

日時：2017年1月28日、冬の経済教室をかねて開催します。

■ 東京部会（No.89）を開催します。

日時：2017年2月9日（木） 19時00分～21時00分

場所：日本大学経済学部会議室（予定）

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo089flyer.pdf>

■ 大阪部会（No.52）を開催します。

日時：2017年2月18日（土） 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト（予定）

参加方法は以下をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka52flyer.pdf>

* 関連団体の報告です。

・ 金融広報委員会「先生のための金融教育セミナー」

2017年1月14日（土）10:10～16:55

沖縄コンベンションセンター（沖縄県宜野湾市）

http://www.festa2016.jp/okinawa_t/index.html

・読売新聞「新聞のちから」(既報)

<https://info.yomiuri.co.jp/service/study/index.html>

【 3 】 授業のヒント

■ 地図の力の再確認を

東京での冬の教室のテーマが「地理教育と経済」であったので、関連して地図の効用を紹介してみようと思います。

地図は地理の学習の必須アイテムですが、経済の学習でも利用価値は大きいことは言うまでもありません。産業学習などでは、どの国に、またどの地域にどんな産業があるのかをビジュアルで理解するには地図で確認することが有効です。もちろん統計データを読み取ることも必要ですが、やはりイメージを通して理解したものの方が強いことも事実でしょう。

経済の学習だけでなく、歴史でも地図は必須です。教科書で地名が出てきてもそれがどこであるかがわからないと、歴史事項はたんなる記号の集積にしかなりません。地歴並行学習が理想的にゆけば、空間の認識と時間の認識が同時に深まり立体的になるはずですが、そう簡単に問屋はおろしてはくれません。

でも、身近に地図を置いて、暇に任せてみているというのも勉強へのモチベーションを上げてくれるもの。公民の授業の内職で地図を見ている生徒がいたら、注意をするのにちょっと躊躇しますね。

さて、地図は紙ベースの地図帳とウェブ上で展開されるものがあります。

前者で使えるものは、小学校の地図帳です。これはいろいろな特産物や産業、名物などが地形図上に絵で描かれているので面白く使えます。

もう一つおすすめは、地歴地図です。歴史的イベントが現在の地図上に書かれています。これをみると、政治だけでなく経済でもいかに歴史的な背景をもって現在に存在しているのか、歴史としての現代社会を認識することができます。

ウェブ上の地図では、グーグルアースの利用価値があるでしょう。冬の教室で河原典史先生が指摘されていましたが、拡大して屋根の瓦の色を見ることでその地域の開発の経過までわかるくらいの優れたものといえるでしょう。ヤフーにも似たようなものがありますが、ストリートビューがついている分、グーグルが一枚上かもしれません。

いずれにしても、経済の勉強に直接使わなくとも、地図を活用することで学習のインセンティブや厚みが違ってくることは確かでしょう。

ちなみに、私は、小説、特に海外小説を読むときには、まず地図で舞台となる場所を確認します。さらにグーグルアースやストリートビューで現在の状況のイメージをつかんだうえで楽しむようにしています。これも活用法の一つかもしれません。(新井)

【 4 】編集後記 (みみずのたはこと)

ネットワークは2006年6月にスタートしています。今年は、11年目になります。

「継続は力」という言葉どおり、10年間の様々な取り組みを通して確実に教育の世界に浸透している実感があります。この10年間の活動の総括、そして継承が今年の課題と感じています。(新井)

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページより
お手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

----- (C) Network for Economic Education ◆◇